

中区地域福祉保健計画

# 石川打越地区



## 目指すまちの姿

住んでいる皆さんの支え合いや、  
助け合いが活き、幸せだなと感じられるまち

● 石川町 ● 打越

みんなで仮装して  
ハロウィンパーティ



### 1:様々な見守り活動を通し、地域の繋がりを広げ、健康寿命を伸ばします

- 見守り事業でもある活動を継続し、住民の繋がりづくり、健康づくりの機会を拡大していきます。
- 特定の担い手に頼る仕組みから、スポット的な参加や地域活動の参加者も担い手として活躍できる仕組みづくりを進めていきます。

### 2:地域の大人と子どもの交流から、大切な絆を作ります

- 観劇会、ラジオ体操への参加者が引き続き増加するように、内容や開催日などを工夫して実施していきます。
- 新たに立ち上がった子育て支援ネットワーク等とも連携し、地域での子育ての取組を拡大していきます。

### 3:防災は自助・共助・公助から

- 誰もが地域防災拠点を開設できるよう、防災訓練を繰り返し同じ内容で実施し、理解を深めていきます。
- 防災フェスタは地域住民の参加しやすさと学びの内容を検討し、他団体との連携も含めて、地域住民の防災への意識を高めます。

## これまでの計画(第4期計画)の振り返り

コロナ禍を経てなお、【継続】することを意識して、地域の活動を推進しています。健康会食会、ふれあいサロン、スイーツ会などを定例的に開催することで、地域住民同士の見守り活動を推進することができました。生活支援を目的としたほっと石打の活動は、【地域をつなごうあいさつで】をテーマに活動を進めています。

そのほかにも、敬老観劇会やラジオ体操、バス旅行、ハロウィンパーティなど子どもから大人まで多くの方が参加できるような取組を、地区内の各団体が連携を取りながら推進しています。

「防災は自助・共助・公助から」をキーワードに、防災訓練や防災フェスタなどで、地域住民の防災意識の向上を図ってきました。

一方で、石川町駅を含む東西に細長い地域であるため、活動の開催場所によっては、参加する住民の偏りが見られました。地域全体で子育てを推進していますが、どの子が【石打っ子】かの把握が難しく、働きかけや把握に課題を感じます。

引き続き、見守りや防災訓練など地域全体での活動を推進していきながら、新たに立ち上がった子育て支援ネットワークなどとも連携し、「子どもは宝」の意識を醸成し、子どもたちが小さい時から地域とのつながりを感じられる取組を進めていきます。





石打ふれあいサロン



ハロウィンパーティ

## 不老町地域ケアプラザ



防災フェスタ



ラジオ体操



健康会食会

竹之丸地区センター

## 石川打越地区はこんなまち！

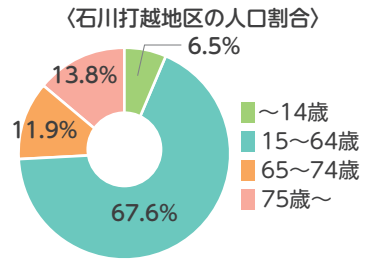
住宅地、商業地として発展をしてきた地区。通りを歩けば親しみやすい下町風情が感じられます。地域の結びつきが強く、地域活動が活発に行われています。地藏坂、牛坂、遊行坂など急こう配が多く、坂のまちの一面もあります。



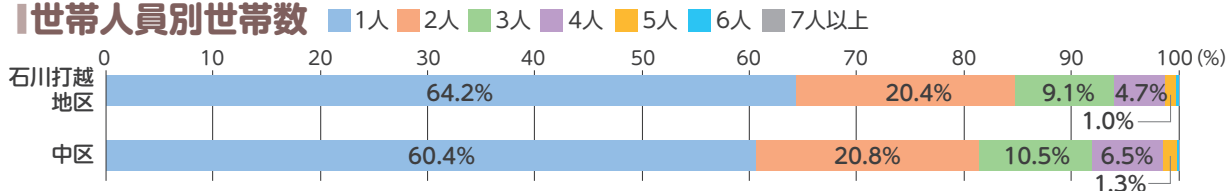
## 石川打越地区の統計データ

### 人口

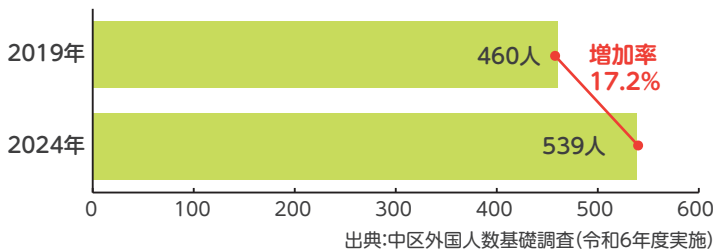
	合計	～14歳	15～64歳	65～74歳	75歳～
石川打越地区	4,419人	291人	2,989人	529人	610人
	100.0%	6.5%	67.6%	11.9%	13.8%
中区	155,313人	14,103人	104,356人	16,773人	20,081人
	100.0%	9.0%	67.1%	10.8%	12.9%



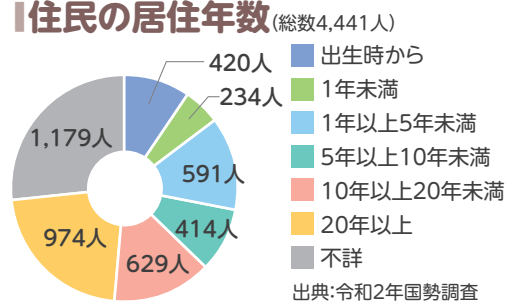
### 世帯人員別世帯数



### 地区内の外国人数の状況



### 住民の居住年数



人口は減少傾向にあり、14歳以下の割合は区平均より低くなっています。65歳以上の割合は区平均より高くなっています。

居住年数を見ると20年以上の割合が高く、長く地域に住んでいる人が多い地域です。

外国人数は増加しており、全体の1割以上を占めていて、14歳以下の人口より多くなっています。

出典記載のないものは「横浜市統計情報ポータル」(令和7年3月現在)より引用しています。

## 第5期計画はどのように作りました

石川打越地区では自治会町内会、民生委員・児童委員、地区社協等の地域で活動されている方の交流会を開催しました。

第4期で推進されたこと、取組の成果等を共有し、意見交換を行い、計画にまとめました。

